

令和4年度学校評価(担当分掌とその重点目標)

本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策を講じて、日常の教育活動の充実を図り、自己を高める目標をもって努力する生徒を支援する。 ○教育活動を効果的かつ効率的に展開する。 ○生徒の心のケアを大切に相談体制や環境づくりを推進する。 				
分掌	重点目標	具体的方策	留意事項	最終評価	
1	総務	学校行事およびPTA行事を円滑に進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施要項や保護者向け案内文書を、簡潔明瞭な文面で作成する。 ・行事が終わった後、職員アンケートを実施し、よりよいものにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の前に、業務担当者による事前打ち合わせを十分に行う。 	B
		さまざまなPTA活動のサポートをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員会、委員会を滞りなく進行する。 ・PTA総会、激励会(合格ぜんざい)等のPTA活動をサポートする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会において今年度のPTA活動内容の原案を作成し、委員会へ提案する。 ・PTA役員、委員との連絡を密にしていく。 	A
	進路指導	新入試制度へのさらなる対応	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度入試の分析をして、新入試制度に関する情報を収集し、学校全体で共有する。 ・文部科学省、大学等の発信事項に注視しながら、研究会などに適宜参加をし、新入試制度に関する情報を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科主任会、学年会、校務委員会等で情報提供、意見交換を行い、学校全体の問題として広く意見を求め、対応していく。 	B
		新しい講座の立ち上げとスムーズな運営	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と教員の希望を聞き、無理のない計画を立てる。 ・部活動との連携を取り、生徒が参加しやすいようにする ・生徒や教員に不都合があれば適宜対応していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科と学年に密に連携を図り、計画を立てる。 ・様々な進路希望に対応できるように計画を立てる。 	A
2	教務	新しい観点別評価のルール作成しながら新校務支援システムを設定し実用化する	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生から始まる新しい観点別評価のルール設定について、生徒の学力向上と教員の業務増加防止の両方の視点から考えていく。 ・新校務支援システムの設定・運用を進めていきながら、簡単で、かつ、ミスが起きにくい成績処理方法を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の日常的な情報交換だけでなく、他校や中学校の情報等も積極的に収集する。 ・ICT教育推進課と連絡を取りながら設定・運用を進めていくが、システム上でできないことも多く、その都度調整が必要である。 	A
		ICT機器の整理と特別教室の環境整備を進め、よりよい授業環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から、ネットワーク担当の業務の大部分を教務部の業務とし、ネットワーク業務をメインに担当する教員を中心に業務にあたるように分担を変える。 ・この数年で劇的に増加したICT機器の整理と特別教室の環境整備を行う。 ICT機器のマニュアル作成をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器のスペックが足りないことや、ネットワークが弱いことは改善できないが、使いやすい環境を整えていく。 	B
	図書	読書や文化的な活動の場として、誰もが利用しやすい図書館であるように雰囲気と環境を整え、生徒の図書館での主体的な活動をサポートしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・読書や学習するための居心地の良い空間を作る。 ・書架を整理し、不要な本は基準をもとに除籍する。生徒や職員のリクエストに応えながら選書基準をもとに新たに図書を購入し、提供する。 ・図書館で生徒の作品を展示・発表する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の利用状況を見ながら、環境整備をすすめ、配架する本や雑誌等を整える。 ・図書委員や生徒の作品の展示・発表に際しては、ポスターなどでほかの生徒に告知し、できるだけ多くの生徒に見てもらえるようにする。 	B
		図書館行事や委員の活動などを生徒・保護者に広く知らせ、積極的な図書館の利用を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向けに「図書館だより」を月1回程度発行し、推薦図書や図書委員の活動、催事の紹介等をする。 ・図書館行事のポスターを廊下等に掲示する。 ・道樹展への保護者の参加を促すためにSNSなどで案内する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物や案内が読みやすわかりやすい内容になるように、表現や視覚的な効果を工夫する。 ・図書館の催事や作品の展示や発表が保護者・生徒に周知されるように、広報の方法を工夫する。 	A
3	特別活動	学校行事や生徒会活動において、生徒が主体的にかつ協力して活動に取り組む姿勢を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会や委員会の活動を促し、生徒が自主的、かつ協力的に取り組むことができるような環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会や実行委員会、委員会の役割を明確にし、意欲的に行動しやすい環境を作る 	A
		学校内外への情報発信。	<ul style="list-style-type: none"> ・HP、生徒会だより、校内掲示板の活用及び整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会だよりのデザイン、校内掲示板の掲示の仕方に工夫する。 	B
	保健	生徒情報の共有と指導への活用	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が諸問題に対し、協力して対応できるよう連携を図る。 ・スクールカウンセラーの活用、学年相談係の活動により生徒相談の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や学年主任会に加え、臨機応変に職員間で情報の共有を図る。 ・元氣ルームの活用 	A
		ゴミの減量	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの持ち帰り、分別の徹底を図り、ゴミの減量に努める。 ・ペーパーレス化を進める。 ・紙のリサイクルを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ処理方法の明確化を図る。 ・ICTを活用し紙の資料を減らす。 ・紙ごみを減らしリサイクルを進める。 	B
	生徒指導	交通安全の励行	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数の減少 ・登校時、下校時の交通指導と身だしなみ指導など注意喚起を促す。 ・集会時やSTを利用して、交通安全について呼びかけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の乗車マナーを遵守させる。 ・被害者のみならず、加害者になる可能性について理解させる。 ・交通事故について調査を進め経年比較をする。 	B
		情報モラルの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルについて講演会を実施する。 ・集会時やLT・STを利用してモラルの向上を図る。 ・アンケートを通して、スマートフォンなどの情報機器の利用状況を把握し、適正な利用ができるように理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の流出をさせない、ネット上で誹謗中傷をしないなど情報に関するモラルやマナーを理解させる。 ・情報モラルに関する知識を深め、規範意識の向上を図るとともに、事件に巻き込まれないように指導する。 	A
基本的な生活習慣の確立		<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・早退・欠席数の減少に努める。 ・授業の始まり等の時間を守らせる。 ・TPOをわきまえた身だしなみ指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や生活リズムを守ることの大切さを日常から指導する。 ・保護者と連絡を密にして、欠席、遅刻、早退の減少に努める。 ・身だしなみや言動について日常から指導する。 	B	
学校全体	教育活動を効果的かつ効率的に展開する	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ポリシーに基づくカリキュラムマネジメントを推進。 ・定時退校日の設定とその推奨、施設時間の徹底。 ・勤務時間外における電話対応の徹底。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の多忙化改善を目指した学校業務の効率化を進める。 ・「あいちラーニング推進事業」の成果を活かし、1人1台タブレットの効果的な活用の研究をさらに進める。 	A	
	生徒の心のケアを大切にす	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任会、相談委員会で情報を共有し、管理職や外部機関との連携を図る。 ・SCやSSWの活用について、職員研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談委員会での情報共有を中心に、事例に応じた対応を柔軟かつ機能的に進める。 	A	
学校関係者評価を実施する主な評価項目	重点目標の達成度、学習指導と家庭生活の充実、国際教育への取組み、交通安全や身だしなみ指導への取組み、進路実現に向けた情報提供や行事への取組み、教育相談体制、校内美化活動、学校行事や部活動指導への取組み、いじめ防止への取組み、業務の適正化と教職員の健康障害防止に向けた取組み				